



AMD Aに沖縄平和賞

人道支援へ県と協力

津梁館で授賞式

アジア・太平洋地域の平和への貢献をたたえる第二回沖縄平和賞の授賞式が二十二日、名護市の万国津梁館で開かれた。

同賞委員会会長の稲嶺恵一知事が国際医療援助団体「AMD A（アムダ）」（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）の菅

波茂理事長に賞状と副賞一千万円を贈り、今後人道支援活動で協力し合うことを確認した。

（3・27面に関連）

稲嶺知事から沖縄平和賞の賞状を手渡される菅波茂AMD A（アムダ）理事長（右）

22日午後、名護市・万国津梁館

ニシアチブを發揮してほしい」と要望した。

県への提案として、①世界の県系人ネットワークを利用した緊急支援機構の確立②沖縄の若者に支援現場を体験させる奨学金制度の創設③広島、兵庫、岡山各県と知事外交のサミット開催の三点を挙げ、「県のパートナーとして頑張りたい」と語った。

菅波氏は「米軍基地など沖縄の不条理を一举に変えることは難しいが、弱者の痛みが分かるゆえの行動を積極的に起こせば、世界がもっと沖縄を理解してくれる」と指摘。人道支援で「沖縄イ

最初設立された沖縄支部の大仲良一支部長は「今後、中南米などで沖縄発の支援活動を続けた

い」と抱負を語った。

稲嶺知事は「戦前戦後、海外の県系人の支援もあって発展した沖縄からAMDAの活動を支援できることは意義深い」と強調した。

選考委員の一人、猪口邦子上智大学教授は「国家の安全だけでなく一人ひとりの命を大切にすることを、二十一世紀の平和観を、沖縄とAMDAが世界に示してほしい」と同賞の役割に期待を示した。

同賞は二年に一度、個人か団体を顕彰し、二〇〇二年の第一回は「中村

哲を支援するペンシャワール会」に贈られた。

◀ ことば

AMDA 日本初の国連医療NGO（非政府組織）。国内外31支部、医師300人を含む会員1500人を擁する。1984年の設立以来、アジア、アフリカ、中南米など約50カ国で災害支援や地域開発の実績があり、現在も14カ国で活動中。